

不便な環境も転職も人生のステップアップに悪くはない

八木 宏

<略歴>

- * 東京都立大学工業化学科(1970年卒),
- * 千代田化工建設 (1970-2001),
マサチューセッツ工科大学化学工学科 (1979年 MS 終了)
- * JFE ホールディングス (旧 NKK, 2001-2007),
- * TOTAL 日本支社 (2007-2013),
- * HyChemTechno 技術士事務所 (2014-)

<仕事を振り返って>

千代田化工建設では、当時十分な設計ツールがなかったプロセス系ソフトウェアの開発から始まり、プロセス設計、解析業務を担当した。その中には、原子力製鉄プロジェクトが含まれており、今では常識となったシミュレーションを駆使したプロセス開発業務を経験。その関係もあり、1977年にはマサチューセッツ工科大学ビジティングエンジニアで ASPEN システムの開発に参加した。1979年に帰国後、石炭液化、オイルシェール、熔融塩燃料電池、13C メタン分離精製などの開発型プロジェクトに参加した。また、海外現場経験のため、へき地のナイジェリアエチレンプラントのスタートアップに従事し、その後、数々のエチレンプロジェクトのプロポーザル作成、顧客との交渉なども経験した。また、1993年には LNG FEED 業務にプロセスマネジャーとして参加し、その他、数々の石油化学プロジェクトにシニアプロセスエンジニアとして参加。1999年技術営業に異動し、グループマネジャーとしてテクニカルセールス業務も経験した。

JFE ホールディングスでは 次世代エネルギーとして期待されていたジメチルエーテル (DME) プロジェクトで、商業化プロジェクトの EM を担当したが、未だプロジェクトの商業化には至っていないのが残念である。JFE 退社後、TOTAL 日本支社ではフランスへの日本技術紹介や産学、産産共同研究のアレンジ業務し、フランスのエスプリも体感した。現在、HyChemTechno 技術士事務所では、数社に対して化学プロセスに関する技術コンサルテーションを行っている。

<講演要旨>

仕事では、プロセス開発業務や解析業を多く経験した。コンピュータの性能も今と比べると月とスッポンであり、また、ソフトウェアも十分なものが無く、自分達で手作りする必要があった。演算時間やプログラムサイズの短縮化など、いろいろと工夫を重ね、シミュレーションしなければならなかった。時代が過ぎると、コンピュータの性能も向上し、市販ソフトも充実したものとなり、これまでの努力が何だったかなど、思っていたこともある。しかしその反面、自分達にしかできないモデル作成で、時間に追われながらも、楽し

んでいたような気がする。とくに、開発プロセスであれば、先例も少なく、自分達で様々な工夫を重ね、実際には得られない極限状態の把握や装置設計上の新たな発見もあり、貴重な経験をする事ができた。

そんな時代を過ごしながら、3度の転職を経験した。転職にはいい面と悪い面があるが、私はいい面しか経験しなかった。転職によりより多くの同僚と仕事を共にすることになり付き合いの範囲も、人の数も増え、また、異なる社風にも触れることになった、はじめはぎこちなく過ごしていたものが、次第に慣れてくるものである。そんな事情もあり、現在のコンサルタント業務にも活着しているように思う。

仕事人間だけで終わりたくなかったこともあり、学会活動にも時間を割いた。石油学会ではペトロテックの編集委員、編集幹事、編集委員長と経験した。また、分離技術会では、編集委員、出版委員、技術専門委員などを経て、幹事、理事、副会長、会長など要職をつとめることができた。化学工学会では、継続教育委員、副委員長を経て、委員長を拝命している。仕事では付き合えない多くの先生方や、技術者と語り会える機会ができています。現在も転職や学会活動を通じて知り合った多くの異業種、学際の方々との交流が続いている。